

Y12b 立教大学理学部 CBLIS プログラムにおける天文分野の教育連携

矢治 健太郎、北本俊二、村山真紀、CBLIS 推進室 (立教大学)

立教大学理学部では、2005年度より、「理数教育連携を通じた CBLIS プログラム～豊島区との理数教育連携による専門教育プログラム～」を実施している。立教大学の理学部学生が教員の指導の下、豊島区の小中学校の先生方と協力して児童・生徒を対象に「サイエンスすることの楽しさ」がわかる理数教育活動を行っている。学生は理数教育企画（授業案作成・教材開発・実験実演・授業サポートなど）を立案し、豊島区立小中学校の教育現場での実践を目指している。

この活動は理数分野全般が対象だが、CBLIS プログラムでは、天文分野に関わる活動も積極的に行っている。具体的には、小学校理科での「夏の星座」に関する授業案の提案及び実践、小学校の科学クラブでのプラネタリウム投影、小学校教員対象の実技研修などがある。この中で、学部学生自身が授業見学を行ったり、TAとして授業支援を行うなどを通して、学校教育現場に触れるいい機会となっている。また、「理数教育企画」という講義を開講し、「自作の天体望遠鏡で月を観察する」というテーマで教育企画を進行している学生もいる。

本講演では、以上の事例をもとに、CBLIS プログラムを通して、立教大学と豊島区の間でいかに地域連携を推進したか、また、この活動を通して、学生、教員、児童・生徒の意識・反応がどのように変わったかを報告し、大学と地域連携の一つのモデルとして提示したい。